

## 保護者アンケート 2024 へのご意見と園からの回答

いつも本園の教育・保育活動に深いご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

令和7年2月にご協力いただきました「保護者アンケート2024」につきまして、あらためて御礼申し上げます。寄せていただいた声のひとつひとつを、職員みんなで丁寧に読ませていただきました。保育は「サービス」として一方向に提供されるものではなく、子どものかけがえのない育ちを、園と保護者が日々手を携えて支え合う、共働の営みであると私たちは考えています。その営みの中で交わされる声は、単なる要望や評価ではなく、子どもを中心にした関係性をともに育てていく対話であると受け止めております。

中には、「こんなことを伝えてもいいのかな…」と迷いながら書いてくださった方もいらっしゃるかもしれません。それでも、子どもたちのことを思い、ご家庭の中で感じたことを、言葉にして届けてくださったことに感謝しています。「こうしてほしい」「こうなったらいいな」というお気持ちはもちろんのこと、日々の何気ない気づきや、さりげない励ましの言葉も、私たちにとっては大きな励みであり、これからの園づくりの力になります。

今回のアンケート結果につきまして、3月上旬に集約・整理ののち、年度末に全職員で共有しその一つひとつの声を大切に受け止めました。そして、4月に職員からの意見を集約し、対話的に共有を重ねながら改善・発展に向けた視点で熟慮し、5月の園内研修(5/10)にて再確認・再検討を行いました。その過程で浮かび上がったさまざまな視点や想い、私たちの保育観なども加味しながら、本園としての考え方や対応方針をまとめましたのでご報告申し上げます。

すべてのご意見に対して、すぐに対応できることばかりではございませんが、子どもたちの健全やかな育ちを最優先に、また保護者の皆さまとともに歩む園づくりをめざして、すぐに改善できること、少し時間をかけて検討していくこと、他のご家庭とのバランスを見ながら丁寧に進めていくことなど、内容に応じて整理をしながら、これからの保育に活かしてまいります。どうぞ引き続き、温かなご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

園での生活は、子どもたちと保護者の皆さま、そして保育者が一緒になって育んでいくものだと、私たちは考えています。これからも、「ちょっと気になったこと」「伝えてみたいこと」がありましたら、いつでもお気軽に声をかけてください。園は、子どもたちにとって安心できる場所であるとともに、ご家庭にとっても信頼していただける場所でありたいと願っています。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

みどりこども園  
園長 松原直俊  
教職員一同

### 【ご意見①】

園庭や道路、駐車場の清掃ありがとうございます。

集めた落ち葉など1ヶ所にまとめて堆肥にして利用してはどうかと思いました。

このたびは、園庭や園周辺の環境について、丁寧な視点と共に素敵なお提案をいただきありがとうございます。日々子どもたちが過ごす場所に目を留めてくださっていること、そして落ち葉を単なるゴミとしてではなく、自然の一部として捉え、循環の可能性に目を向けてくださったことに、職員一同ありがたく受け止めております。

園庭に広がる自然は、単に緑化のためにあるのではなく、私たちにとっては子どもたちの五感を研ぎ澄ます大切な“学びの場”です。風に揺れる木々の音、日によって異なる光の色、足元でうごめく虫の気配。私たちはそうした空間を通じて、子どもたちが「生きている世界の一部であること」を実感していける園庭づくりを目指しています。匂いや香り（嗅覚）には、季節によって異なる草木の香りや、ときには土や雨の匂いも混じります。その匂いが記憶とつながり、ふとした瞬間に蘇るような感覚も、大切にしていきたい体験です。色や形（視覚）においても、花や葉の色合いや形の違い、毎日変化する園庭の様子は、子どもたちの「違いを面白がる感性」を育ててくれます。「これ、昨日とちがう!」と気づいた子どもたちの声に、私たちもまた気づかされます。音（聴覚）は、風が木々を揺らす音、生き物たちのささやき、友達の笑い声…すべてがその日のリズムをつくります。耳を澄ませば、同じ木でも風の音は日によって違い、自然が奏でるリズムの多様さを肌で感じる事ができます。触感（触覚）は、土や葉、石や水、泥や木の肌など、様々な素材との出会いを通じて育ちます。ザラザラ、ツルツル、ネバネバ、トゲトゲ…。その感触を手で感じ、言葉にしていくこともまた、豊かな学びのひとつと考えています。味（味覚）では、園庭で育てた野菜や果実を収穫して味わう体験を通じて、食べ物がどのように育ち、どのように自分の命になるのかを五感で感じ取っていきます。命あるものをいただく、という感覚もまた、園庭が育む大切な力です。こうした視点から、私たちは落ち葉や草花も「遊びの要素」「育ちの要素」として見つめています。落ち葉が舞い、溜まり、腐葉土になっていく過程そのものが、自然の“営み”であり、“命のつながり”の教材です。

園では、あえて遊びに使った草花や落ち葉、枝などをすぐには処理せず、できるだけそのまま園庭に残しています。これは、土中のミミズやダンゴムシなどの生き物がそれを細かくし、微生物が分解することで、土の性質を豊かにし、酸性に傾きすぎない健やかな土をつくるという自然の働きを、子どもたちとともに感じていきたいという願いからです。ご提案いただいた「堆肥化」もまた、自然の循環に触れる大変貴重な学びの入り口だと感じております。職員の中には家庭菜園やコンポストを経験している者もあり、子どもと一緒に「待つ」「変化を観察する」といった時間が持てたら素敵だという声もあがりました。一方で、堆肥化を実際に行う場合にはいくつかの配慮点もあることがわかってきました。園としても、どのような方法であれば園庭環境と保育に無理なく取り入れられるかを、今後さらに具体的に検討していきたいと思っております。私たちが何より大切にしている“園庭とは命に出会う場である”という想いを、保護者の皆さまと共有できたことを有り難く思います。

## 【ご意見②】

日々のアルバムについて、写真に映っている子の偏りがある気がする。  
どうしても活動的な子と控えめな子がいるので仕方ないなあとは思っただけど  
メインで活動している子のショットを撮ったら、その裏でじっとしている子の姿も  
もっとあげてくれるといいと思う。うちの子はそういう遊びに興味ないんだなあとか  
親としてはそういう様子も参考になると思う。

このたびは、園での日々の様子を楽しみにしてくださっている中で、写真の内容について気づかれた点を届けていただき、ありがとうございます。子どもたちが園でどのように過ごしているのか、その一端を写真で見られることは、ご家庭にとっても安心や喜びにつながる大切な手がかりのひとつであると思い、ウェブページでの公開は2006年度から取り組んでまいりました。ご指摘いただいたように、活動的な子どもが写る頻度が多く、静かに過ごしている子や、遊びに加わる前の“まなざし”や“間”の時間が、記録に残りにくくなっていることについては、園内でもたびたび話題に上がっておりました。今回あらためてご意見をいただき、保育の中での記録の在り方を見つめ直す大切なきっかけとなりました。

子どもたちはそれぞれに個性があり、遊びへの入り方や関わり方も多様です。自ら声を上げて参加する子もいれば、じっと見つめながら心の準備をしている子、好きな空間で一人遊びを深める子もいます。私たちはそのすべての姿に価値があると考えていますが、カメラを手にしたとき、どうしても“動きのある場面”や“表情がはっきりした場面”に目がいきやすいことがあるのも事実です。そうした偏りは、写真を通じて保護者の皆さまにお届けする際に、実際のクラスの姿やその子の一面だけを強調してしまうような印象につながる可能性があります。そのため、日々の記録をどのように残すか、そしてその写真がどのように受け取られるかという点について、思いを馳せるきっかけとなりました。「もっと“まなざし”を撮ろう」「静かに過ごす姿こそ魅力的に見える視点を持ちたい」といった意見も出され、写真という記録の在り方そのものを保育の一環として見つめ直す視点も生まれています。今後は、一人ひとりの子どもの“その子らしさ”が自然に記録されるよう、意識的にシャッターを切るタイミングや視点を意識していきたいと考えています。

写真はあくまで一瞬の記録ですが、そこに写る姿が「園でのその子のすべて」と誤って伝わってしまうことのないよう、文脈や背景にも目を向けながらお伝えしていくことも大切な責任であると考えています。必要に応じて、担任から直接「今日はこんなことをしていたんですよ」と言葉で伝えるやりとりも大切にしながら、写真と保育者の言葉を組み合わせて、保護者の皆さまにとっての安心につながるよう努めていきたいと思っております。

### 【ご意見③】

簡単なことではないとは思いますが、  
毎月配布されるような各お便りの配信や毎日の連絡帳が、アプリだといいなと思いました。

このたびは、園からのお便りや連絡帳について、日々の生活に即した視点からご提案をいただき、誠にありがとうございます。園との連絡手段がより柔軟で、日常の中で無理なく活用できる形になることへのご期待が込められていると感じております。ご意見にあるように、近年ではスマートフォンやタブレットを利用した連絡手段が広く浸透しつつあり、外出先でも確認がしやすく、ペーパーレスで情報の管理がしやすいという点で、非常に利便性の高い方法であると私たちも感じております。実際に園でも、現在「キッズビュー」というアプリを一部導入しておりますが、中には、連絡帳機能やお便り配信機能なども含まれており、今後の展開次第ではより広く対応できる可能性があります。

一方で、紙での連絡を希望されるご家庭も一定数おられ、家族全員で内容を共有しやすいことや、目に見える形で“記録が残る”ことに安心感を持たれるという声もこれまでに寄せられてまいりました。園としても、それぞれのご家庭のスタイルやニーズに応じた対応の必要性を強く感じております。また、アプリ配信を主とする場合には、個人情報取り扱いや、配信ミス・既読の確認といった技術的な課題、職員間での運用体制の調整など、導入にあたって慎重な検討を要する点もございます。こうした面でも、現在の体制の中でどのような段階的な導入が可能かを模索しているところです。

今後の方向性としては希望されるご家庭にはアプリでの受け取りが可能となるような仕組みや、紙とデジタルの併用による運用方法など、無理のない形を検討していけたらと思っております。園の連絡の在り方そのものをよりよい方向へと見直す機会をいただけたことをありがたく感じております。利便性の追求だけでなく、温かさと安心が伝わる連絡の形を、これからも模索し続けていきたいと思っております。

#### 【ご意見④】

みどり公園でのイベント時は、園のトイレを貸してほしいです

公園トイレは男は外から見える、女子は音が漏れる、和式、きれいさなど問題が多数で祖父母が腰が悪くて使用できませんでした。

このたびは、みどり公園での行事時におけるトイレのご利用について、ご不便をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。また、具体的なご不安を丁寧に伝えていただきましたことに、心より感謝申し上げます。園のすぐ隣にあるみどり公園は、広々とした環境のなかで子どもたちがのびのびと活動できる大切な場であり、保護者の皆さまにとっても身近で温かい行事の舞台として、私たちも長年大切に活用してきました。一方で、公園に設置されている公共トイレの構造については、見通しのよさや音の響きやすさ、和式であることの使いにくさなど、特にご高齢の方や身体に不安のある方にとっては利用しにくい状況であることを、職員間でも以前から課題として認識しておりました。今回ご指摘いただいたように、祖父母の方が安心して行事に参加できるような配慮が行き届いていなかったことは、行事が子どもの成長をみんなで祝う場であり、その喜びを共に分かち合えるような環境づくりを目指す上で、園としても見直しが必要であると受け止めております。

園内のトイレを開放することについては、これまでも検討された経緯があり、お声掛けいただいた方につきましては、個別に対応できる場合もありましたが、安全管理や保育室との動線、職員の配置状況などの観点から、近年は慎重な判断が求められてきました。特に不特定の方の出入りをどう管理するかという点が大きな課題として残っていました。しかしながら、「必要としている人が確かにいる」「困っている声がある」という実際のご意見をいただけたことで、園の判断や前提そのものを見直すきっかけをいただいたと受け止めております。今後は、行事の規模や内容、想定される来場者の人数や状況に応じて、園内の1階部分にあるトイレを限定的に開放する方向で検討を進めてまいります。その際には、事前のご案内や受付の仕組みを工夫し、安全面を確保したうえで、必要な方が安心してご利用いただけるような体制づくりを整えていきます。また、ご高齢のご家族やお身体に配慮の必要な方がいらっしゃる場合には、事前にご相談いただければ、より個別に対応ができるよう、職員間でも共通理解を図ってまいりたいと思います。子どもたちの育ちを支える行事の場が、ご家族にとっても安心して参加できる、心地よい時間となるよう配慮と工夫を積み重ねていきたいと思っておりますので、引き続き、よろしくお願いいたします。

### 【ご意見⑤】

子供のちょっとした怪我が続くときがありました。  
よく見るようにしますとの返事だけでは不安な時がありました。

このたびは、お子さまの園での怪我に関してご不安な思いを抱かれたこと、そしてそのお気持ちを率直にお伝えくださったことに、心より感謝申し上げます。日々お子さまを安心して預けていただくことの重みを、私たちはあらためて深く受け止めております。「よく見ておきます」といった返答が、かえって不安を残してしまったという点についても、言葉の持つ重みと、信頼に応える説明の在り方を見直す大切な気づきとして、真摯に受け止めました。

園では、日々の活動の中で子どもたちが安心して思いきり遊び、関わり合いながら成長していくことを大切にしています。ときにはその過程で、転倒やぶつかりなどの“小さな怪我”が起きてしまう場面もありますが、それを当たり前のこととして軽視するのではなく、一つひとつの出来事に対して丁寧に向き合うことを大切にしています。怪我が続いた場合には、環境の配置や動線、使用している遊具の状態など、背景となる要因を確認したうえで、保育者同士で見守り方や声のかけ方を話し合い、必要があれば対応の仕方やルールの見直しを行っています。また、個々のお子さまの発達段階や特性、動きの傾向によって、注意が必要な場面も異なってくるため、「その子らしさ」に寄り添った見守りができているかどうかという観点からも、職員同士で日々共有を行っています。

今回のご意見を受け、特に「どのように説明するか」「どのように伝えるか」という点において、保護者の方との信頼関係を育むうえでの丁寧な言葉選びや説明の仕方について、改めて園内で見直しを行いたいと思います。怪我のあった場面については、単に「よく見ておきます」という一言ではなく、「どのような状況で起きたのか」「今後どのような点に気をつけていくのか」「どのようにフォローしているか」といった具体的な内容を、わかりやすく丁寧にお伝えしていくことを心がけていきたいと思います。その際には、お子さまのその時の気持ちや、周囲との関わりの様子などもできる限り言葉にしなが、お子さまの育ちの文脈の中でご説明していけるように努めていきたいと思います。

### 【ご意見⑥】

グリーンドームでのイベントの人数制限を緩和してほしいです。  
小学生・祖父母の参加も考慮してほしいです。

このたびは、園行事に関する大切なお声を届けていただき、誠にありがとうございます。お子さまの成長の姿を、ご家族みんなで見守りたいというお気持ちは、私たち保育者にとっても非常に共感するものであり、その思いに少しでも応えたいという願いを改めて強くいたしました。行事は、子どもたちが日々積み重ねてきた遊びや学びの成果を表現する大切な場であり、その姿を保護者の皆さまだけでなく、祖父母やきょうだいなど多くの方々に分かち合いたいというお気持ちは、私たちも深く理解しております。

現在、劇あそび会などの行事では、開催場所であるグリーンドームの収容人数、安全上の観点から、ご家庭ごとの参加人数に制限を設けさせていただいております。特に、子どもたちがホール全体を使って自由に表現したり、観客との距離感を意識しながら演じたりする場面があるため、空間の余白を残しつつ集中できる環境をつくることは、保育の一環としての行事運営において大切な要素の一つと考えております。しかしながら、子どもたちにとっても、大好きなおじいちゃんやおばあちゃんが見に来てくれたという体験は、何よりの自信や喜びにつながることも想像できます。人数制限そのものの見直しが難しい場合でも、「より多くの方に姿を届ける方法はないか」ということで、当日の様子を撮影した動画の後日配信を以前より行っておりますが、ライブ中継による別室上映など、形を変えた参加の機会を工夫できる余地があるとも感じています。

子どもたちの表現の場が、特別な緊張ではなく、安心と誇らしさの中で展開されることが、私たちの目指す行事のかたちです。そのために、保護者の皆さまが無理なく、温かく参加できる場づくりを今後も考えていきたいと思っております。行事を通してご家庭と園がつながり、子どもたちの育ちと一緒に喜び合える関係性を築いていけるように、小さな工夫を重ねながら改善に努めていきたいと思っております。

### 【ご意見⑦】

チューをする、〇〇が好きで結婚する、おちんちん・お尻・おっぱいなどの発言をよくするようになったのが、気になりました。

このたびは、お子さまの言葉やふるまいに関して、率直なお気持ちをお寄せいただきありがとうございます。ご指摘のような言葉ややりとりは、園生活の中でもときどき見られる場面があります。「チューしたい」「結婚する」などの言葉は、性的な意味というよりも、“大好き”や“そばにいたい”という気持ちを伝える方法として使っていることが多く、子どもたちにとっては遊びや関係づくりの一部であることがほとんどです。また、「おちんちん」「おっぱい」など身体の名称に関する言葉も、成長とともに自然に芽生える“自分の身体への関心”や“違いへの気づき”の表れであり、ごく一般的な発達の一過程とされています。とはいえ、それがふさわしくない場面や頻度で繰り返されるとときには、まわりの子どもや大人にとって違和感や不安につながる場合もあります。

園では、こうした言葉が出た際に、頭ごなしに注意をしたり恥ずかしさを植え付けたりするのではなく、「それはどんなときに使う言葉かな?」「お友だちがいやな気持ちにならないかな?」と、子どもたち自身が考える機会をもてるよう、対話を大切にしています。また、「身体は大切なもの」「自分と相手を大切にすることはどういうことか」といったテーマを、絵本や日々のやりとりの中で少しずつ伝えることを心がけていきたいと思えます。性にまつわる言葉は、子どもにとって決してタブーではなく、健やかな成長の中で自然と出てくるものであるという理解を土台にしています。年齢や個人差によっては、興味が強く出る時期もあれば、周囲の反応を楽しむように使ってしまう時期もあります。特に、大人が驚いたり笑ったりする反応があると、子どもはそれが“面白いこと”として強化されてしまうこともありますので、園では穏やかに受け止めつつも場面に応じた対応を丁寧に行っています。また、子どもの関心に寄り添いつつ、安心して自分の身体や心について話せるような環境づくりを、今後も継続していく必要があると感じております。保護者の皆さまにおかれましても、「どう受け止めたらよいのか分からない」「どう声をかけたらよいか迷う」と感じられることも多いかと思えます。そのようなときは、どうぞ遠慮なく園にご相談いただけましたら、具体的な事例とともに一緒に考えさせていただければと思います。

性についての話題は、ご家庭ごとの価値観や文化背景もあるため、園としては一律の対応ではなく、お子さまや保護者との関係性の中で柔軟に、丁寧に対応していくことを大切にしています。子どもたちが「知っていい」「考えていい」「話していい」テーマとして、自分の身体や気持ちを大切にできるような対話が日常の中にあること。園ではそのような土壌を育てていくことを、これからも大切にしていまいります。

### 【ご意見⑧】

共働き家庭にはあまり優しくない園だと感じる点が何点かありますが  
以下はどうしても改善していただきたいです。

お盆、年末、年度末等、園のお休みが多いこと→希望保育の日をもう少し多く設けてほしい。  
両親ともにお盆休みや年末の休みがない職場だと、お盆の3日間、年末の2日間も仕事の休みがとれません。祖父母も働いており、預け先がありません。こちらも極力休めるように努力はしていますが、本当に本当に困っています。どうかかなりませんかでしょうか。お願いします。

このたびは、園の年間開園スケジュールに関して、共働き家庭としての切実なお気持ちをお寄せいただき、心より感謝申し上げます。限られた時間のなかで仕事と子育てを両立されている日々のご努力を想像しながら、保育の場が少しでもその支えとなれるようにとの思いをあらためて強くしております。お盆や年末年始、年度末といった時期にお子さまの預け先が確保できず、お仕事を休まざるを得ない状況になってしまうこと、そのことがご家庭にとって大きなご負担になっているというお声を受け、私たちも深く受け止めております。

園では、年間の開園日・休園日については、入園説明時に配布している【重要事項説明書】～入園に際してご理解頂きたいこと～に掲載し、入園申し込み前同意書にて承諾をいただいたうえで、全体の職員体制や保育環境をふまえて計画的に運営を行っております。特に、年度末や長期休暇期間には、園内整備や次年度への準備、保育計画の見直しなどの業務が集中し、職員が心身を整える大切な時間でもあるという背景がございます。しかしながら、働き方や家族の形が多様化する中で、「家庭で休めることを前提としたスケジュール」が必ずしもすべてのご家庭にとって現実的ではないことを、私たち自身も痛感しております。実際に、近年ではご家庭に祖父母の協力を得ることが難しいケースや、単身での育児、ご家庭内に体調面での制約がある場合など、さまざまな事情が増えてきていることも事実です。そのような背景をふまえ、園としてもできる限り柔軟な対応を目指すべく、職員間でも率直な意見を集め、検討いたしました。

現段階では、全体として休園日を減らすという大きな変更は難しい状況ですが、個別のご事情に応じた対応や情報提供の充実といった方向で工夫を進めてまいりたいと思います。たとえば、どうしてもご家庭での保育が難しい場合には、事前のご相談を受けただけで近隣の一時保育施設や、他園の臨時受け入れ情報をご案内するなど、地域資源を活用したサポートの体制を整えてまいりたいと思います。

職員一人ひとりもまた、子育て世代の当事者として、家庭と仕事のはざまで悩みながら過ごしている現実があります。だからこそ、「保護者の困りごとは他人事ではない」という視点を大切に、制度や体制だけでなく、“まなざし”のレベルでの支え合いを育てていける園でありたいと考えておりますので、引き続き、ご理解ご協力のほど、よろしく願いいたします。

### 【ご意見⑨】

保育参加の後、子どもを連れて帰らなければならないこと→上記と同様。  
できたら午後から仕事へ行けるようにしてほしい。せめて給食は食べさせてほしいです。

このたびは、保育参加後の降園の流れについて、保護者としての率直なお気持ちと、日々のご事情を踏まえたご意見をお寄せくださり、誠にありがとうございました。お子さまの園での姿を見守りたいというお気持ちとともに、限られた時間のなかで日常をやりくりされている様子が伝わってまいりました。

園では現在、未満児クラスにおいては、保育参加を保護者と共に過ごした後、そのまま一緒に降園していただく形を基本としています。これは、子どもたちが安心して保育に再び戻ることが難しいと感じる場面が多く、情緒的な安定を最優先に考えた対応であります。一方、以上児クラスでは、多くの場面で保育参加後もそのまま保育を継続することができており、子どもたちも自ら気持ちを切り替えながら日常に戻っていく力を少しずつ育てています。その意味で、以上児については基本的に午後も通常通りの保育を行っているのが現状です。とはいえ、ご意見にあるように「せめて給食までは…」 「午後から仕事に戻りたい」という思いを抱かれるお気持ちも、私たちとしてはとてもよく理解できます。日々のご家庭の状況やお仕事の形は多様であり、それぞれのご家庭に合ったかたちで園行事に参加いただけることが何より大切だと考えています。

今回いただいたご意見により、そうした多様な声にどう応えていくかを、あらためて園内で考える機会となりました。実際に、コロナ禍以前には保護者とお子さまと一緒に給食を食べ（給食の試食を兼ねて）、保育参加の余韻を温かく感じながら午後へとつなげるような時間がありました。今後は、保護者の方の午後の予定がある場合などには、あらかじめご相談いただけるような流れを設けたいと考えております。ただ、未満児のクラスにおいては、やはり情緒面での揺らぎが大きく現れやすいことから、保育再開に戻るかどうかの判断は慎重に行う必要があると考えております。その際には、お子さま一人ひとりの心の状態をよく見つめたうえで、担任との相談の中で無理のない選択ができるようにいたします。

なお、保育参加はあくまで“希望される方のみ”ご参加いただいているものであり、全家庭一律にご参加いただく必要はございません。「参加できないと申し訳ない」「無理をしてでも参加しないと…」というお気持ちはどうかお持ちにならず、ご家庭の状況に合わせて、安心してご判断いただければと思います。

保育参加は、お子さまの成長に保護者の皆さまがふれる大切な機会であると同時に、園とご家庭がつながる時間でもあります。だからこそ、できる限り無理なく、心地よく参加いただけるように、今後も一つひとつ見直しを重ねてまいります。

【ご意見⑩】

年間の行事予定とその時必要になるものが一緒に分かる一覧表があると、心構えができてありがたいです。

このたびは、年間行事と準備物に関して、より見通しをもって生活できるようにというご提案をいただき、心より感謝申し上げます。園では、年度当初に年間行事予定表をお渡しし、主なイベントについては日程の見通しをお知らせしていますが、行事の中身や準備物の詳細については、毎月のおたよりや直前のお知らせの中でお伝えする形をとっております。これは、子どもたちのその時々や育ちやクラスの様子に応じて、活動内容や必要なものを柔軟に決めていくという保育の方針にも基づいており、一律の計画ではなく、“今の子どもたちにとって必要なこと”を大切にしたいという思いが背景にあります。

しかしながら、ご家庭での準備やスケジュール調整のしやすさという点においては、「あらかじめわかっていた方が助かる」というお気持ちがあることもよく理解できますし、それが保護者の安心感にもつながるというご指摘は、まさにその通りだと感じております。今回のご意見を受け、園内では「準備物の“目安”だけでも早めに示せるとよいのでは」「変更がある場合はその旨を明記することで、柔軟性と安心感を両立できるのでは」といった前向きな声が多く挙がりました。その際には、「変更の可能性があること」「内容は子どもたちの様子に応じて見直されること」も明記し、あくまで“参考”としての情報提供であることを伝えながら、保護者の皆さまの心構えに寄り添えるような内容を目指して作成していきたいと思っております。ご家庭によってはご兄弟姉妹がいたり、お仕事の都合がつけづらかったりと、準備や見通しに対するニーズはさまざまであることを私たちも実感しております。だからこそ、「できるだけ早く、わかりやすく、必要なことが伝わる」という視点でのお知らせを心がけてまいります。

【ご意見⑩】

たんぽぽ組さんで、先生が子どものトイレ介助中に、保育室に大人の目がないことが何度かありましたので少し心配になりました。人手不足なのは重々承知しておりますがまだ幼い子たちなので、常に誰かの目があると安心かなと思いました。

このたびは、たんぽぽ組での保育中における見守りの体制について、ご心配な思いを抱かせてしまいましたこととお詫び申し上げます。また、お子さまの安全と安心を第一に考えてくださるお気持ちを言葉にして届けていただきましたこと、職員一同、深く感謝申し上げます。子どもたちの成長段階や日々の関わりの中で、大人の存在がそばにあることそのものが大きな安心につながることを、私たちも日々実感しております。

当園では現在、園児数に対して十分な職員体制が整っており、人手が足りないという状況にはありません。そのため、今回のようなことが起こってしまった背景には、人員の不足ではなく、保育者間の連携や確認の“タイミング”において、確認や声かけが十分に行き届いていなかった可能性があるかと振り返りました。

原則、園では、トイレ介助やお迎えの対応などで一時的に担任が保育室を離れる必要が生じた場合でも、他の職員が声を掛け合い、空間全体を見守ることができるよう、園全体で支え合う保育を行っております。とはいえ、今回のように「実際に保育室に誰もいない時間があったのではないか」と感じられたというお声があったことについて、私たちは重く受け止めております。今後は、トイレ介助の際には必ずもう一人の職員が見守りのために入室すること、廊下や近隣の保育室との連携を強化し、必要に応じてすぐにサポートに入れる体制を再確認しました。また、誰かが保育室を離れる際には、必ず一言、声を掛け合うという基本の連携も、あらためて徹底していきたいと思えます。「チームとして見守る」という視点に立ち返り、職員同士の自然な声の掛け合いや気配りの循環が、園全体の安心感につながるような体制を築いてまいります。

### 【ご意見⑫】

泥遊び用の服入れ、汚れた服入れなど都度プラスチックの袋を使用することに抵抗があります。先生方の負担も増える可能性があることは重々承知なのですが、環境保全のためなるべくプラスチックを消費しないような方法があればありがたいと思います。

このたびは、園生活の中で日常的に行われている持ち帰りの仕組みについて、環境への意識とともに丁寧なご意見をお寄せいただき、誠にありがとうございます。毎日のことだからこそ、見過ごされがちなかにも大切な視点をもって関心を寄せてくださったことを、職員一同大変ありがたく受け止めております。園では、泥などで汚れた衣類を持ち帰る際、衛生面への配慮と、カバンや他の荷物への影響を防ぐために、これまで主にビニール袋を使用してまいりました。これは、濡れたりにおいがついたりした衣類の扱いにおいて、簡便で確実な手段として選ばれてきた背景がございます。しかしながら、使い捨てのビニール袋を日常的に使用することへの抵抗感や、プラスチックごみ削減に対する社会的な意識の高まりを受けて、園としても持ち帰りのあり方を見直すべき時期に来ていると感じております。実際に、すでに一部のご家庭では、洗えるナップサックや防水性の中着袋など、繰り返し使える袋をご用意いただき、そうした形でのご協力が可能であれば、今後の園全体の取り組みとして広げていくことも視野に入れております。

今後は、「洗えるタイプの防水袋の使用も可能です」といったお知らせをさせていただき、保護者の皆さまにも無理のない範囲での協力をお願いしてまいります。繰り返し使える袋を使用することで、子どもたち自身が“自分の持ち物を大切にする”という姿勢を育むきっかけにもなると感じております。もちろん、においや汚れの程度、感染症対応など、やむを得ず使い捨ての袋を使わざるを得ない場合も引き続き想定されます。その際には、園としても最低限の使用とし、必要に応じて袋の種類や使い方の工夫も重ねてまいります。

このような日常の積み重ねを見直すことは、環境にやさしい園づくりへの第一歩であると同時に、子どもたち自身が“物を大切にする心”や“繰り返し使うことの意味”に触れるよい機会でもあると感じております。引き続きご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

### 【ご意見⑬】

また、子供が帰ってきた際に全く異なる香りになって帰ってきます。

他の家庭で使用されている柔軟剤等によるものも思いますが、臭いがきつすぎることも多々あります。私たちは科学物質過敏症ではないですが、香りに悩まされています。

このたびは、日々の保育生活の中で感じられた香りに関するご不安や違和感について、率直にお声を届けていただき、誠にありがとうございます。柔軟剤や洗剤などの香りについては、近年社会的にも“香害”という言葉とともに関心が高まっており、体質によっては頭痛や気分不良など、健康に影響を及ぼすケースがあることも知られるようになってまいりました。園でもこれまで、香りの強すぎる柔軟剤や制汗剤の使用について個別に配慮をお願いする場面がありましたが、今回のように「他のお子さんの衣類に香りに移る」といった形で影響が現れるケースについては、これまで十分に対応できていなかった側面があります。特に園生活では、子どもたちが近い距離で一緒に過ごす時間が多く、カバンやロッカーに衣類が並べて置かれること、寝具類が密接することなど、日常のさまざまな場面で香りが周囲に広がりやすい環境となっています。私たち職員の間でも、「におい」や「香り」の感じ方が人によって大きく異なること、そしてそれが時に人間関係や集団生活の中で見えにくいストレスの要因になり得ることを再認識しました。

今後、園だよりや個別のお知らせ等を通じて、「柔軟剤や洗剤の使用はできるだけ香り控えめなものをご使用いただけると助かります」という趣旨のお願いを、保護者の皆さまに向けて発信させていただき予定です。このお願いは決して一律の禁止を目的としたものではなく、あくまでも“みんなが心地よく過ごせる環境づくり”の一環として、ご家庭にできる範囲でのご配慮をお願いするかたちを想定しております。子どもたちが日々を過ごす空間が、五感にとっても安心できる場所であるよう、整えていきたいと考えております。

【ご意見⑭】

子どもが園から持って帰ってきた制作物の中に、中に結構な水滴がついているペットボトルがあった。我が家から持っていったものではないし、不衛生なので処理に困った。

(捨てたいけど子どもは捨てないでと言う)

家庭から素材を持ってくる場合は必ずきれいに洗って乾かすことを周知させて欲しい。

このたびは、お子さまが持ち帰られた制作物の中に、衛生面でご不安を抱かれるような素材が使われていたとのこと、お詫び申し上げます。園では、日常の中にある身近な素材を活かして、子どもたちが自由に発想し表現できるような制作環境を大切にしています。廃材をものづくりの教材として位置づけ、空き箱やペットボトル、ラップの芯などを用いた制作も、子どもたちにとっては創造を広げるきっかけとなっています。しかしながら、それらの素材が十分に乾燥されていなかったり、衛生的に不安のある状態で提供されていた場合には、子どもたちやご家庭にとって不快や不安につながる可能性があるということも、改めて実感いたしました。

特にペットボトルなど密閉性の高い素材は、乾きにくさや残った水滴によるカビの発生、においなどが生じやすく、衛生管理が非常に重要であることを再確認しております。今後は、保育室で使用する廃材について、保管前・提供前に十分な確認を行うとともに、濡れた素材や乾燥が不十分な素材は使用しないように気をつけてまいりたいと思います。また、ご家庭からご協力いただいている廃材についても、園から改めて「清潔な状態で乾燥させてからお持ちください」というお願いを、今後のおたよりで明記させていただきます。

子どもたちが“自分で選ぶ・つくる・表現する”という体験を支える素材だからこそ、安心して手に取れるものであることは、とても大切なことです。保育活動のなかでは、「目の前の素材が何に変わるか」というワクワク感や、「自分だけの作品を生み出せる」という達成感が何よりの育ちの源になることがあります。また、衛生面だけでなく、「素材がどうやって園に集まり、どう扱われているか」ということも、子どもたちにとっての“暮らしの学び”のひとつとなると私たちは考えております。素材の流れに関するお話も保育の中でしていきたいと思っております。